

角田山&樋曾山山行報告

【山行日】2018年4月7日(土)~8日(日)

【集 合】岩舟支所P AM 5:00

【費 用】マイカー1台 : 17,600円

【メンバー】CL:鈴木、石田、岩淵、大西、
島田、渡辺

【コースタイム】7日:岩舟支所 P5:00=角田浜
P8:10/9:00~弥彦神社 9:20/10:20=農産物直売所
「やひこ」10:30/11:00=道の駅「国上」11:10/12:20
=国上寺 12:30/13:30=道の駅「良寛の里わしま」
13:40/14:10=やすらぎの宿「夕華」14:30



7日 曇り時々雨 雨の為角田山登山を中止し、弥彦神社と国上寺を見学し道の駅でお買いもの
角田山の雪割草とカタクリの花に、もう一度会いたいというリクエストがあり計画した。

2日間天気は良くない予報であったが、雨の場合は観光と決め岩舟支所Pを予定通り出発する。



北関東道から関越道を進むと天気が良く、上州武尊山や赤城山が見え今日の天気に期待してしまふ。

ところが関越トンネルを抜けると空模様が一变し、灰色の空にガスが掛かり視界が無くなる。やはり日本海側の天気は良くないようだ。しかし平野部に出ると空が明るくなり、弥彦山やこれから登る角田山が良く見えるようになる。予定通り角田浜の駐車場に着くと、明るく風も無いので急いで出発の準備を始める。トイレを済ませストレ

ッチを始めると、雨がぽつりと落ちてきた。風が強くなり雨脚も強いので、トイレの軒先で様子を見ることにする。20分程待ったが段々寒くなり冬の服装でも寒いので、車の中に入って様子を見る。

雨は止まず風が増々強くなるので、登山を諦めて観光&買い物にして弥彦神社へ向かった。弥彦神社は越後の国一之宮であり、「万葉集」にも歌われる由緒ある古社である。御神体は背後にそびえる弥彦山で、祭神は「天香山命」が祀られている。

駐車場から歩くとすぐに一の鳥居に着き、鳥居の先の広い参道を進むと社務所があり拝観券を求め。社務所から左に参道を進むと奥に拝殿が鎮座し拝殿の造りは「三間社



流造」の重厚な社殿である。弥彦山は山全体がパワースポットとして知られ、御神体を弥彦山とする弥彦神社には、山からのエネルギーが絶え間なく流れて来ているようだ。我々も「いつまでも元

気に山に登れますように」とお願いし宝物殿に向かう。弥彦神社は越後文化発祥の地とも言われ、重要文化財の「志田大太刀」をはじめ、重要美術品や古文書など数多く展示されていた。1階の展示室には歴代天皇の肖像画が展示され、我々が知らない天皇が数多くいたことに皆驚いていた。



駐車場に帰り前のお土産屋さんで地図をもらい、農産物直売所「やひこ」に向かった。「やひこ」は弥彦温泉街にある直売所で、「おもてなし広場」として整備され魅力的な特産品やお土産品を揃え、足湯や展示場も併設されている。お買い物を楽しんだら次の道の駅「国上」に行き、味処「花てまり」で昼食を食べてからお買い物。一番人気の「花てまりラーメン」を頼んだが、名物に旨いもの無しで美味しくなかった。ランチの後ゆっくり買い物を楽しんだら、良寛さんゆかり

の寺「国上寺」に向かう。10分くらいで寺の駐車場に着き、参道を歩いて右に石段を登ると立派な本堂がある。国上寺は開山1300年の越後最古の真言宗の名刹で、境内にある「五合庵」で良寛さんが20年ほど過ごしたことで知られている。

本堂は歴史を感じる重厚な造りで立派だが、保存状態が悪く濡れ縁の板や柱がかなり傷んでいた。本堂や良寛さんの像にお参りし、五合庵に向かうと雨脚が強くなってきた。傘をさして滑りやすい急な坂を、しばらく降りて行くと小さな草庵が佇んでいる。良寛さんが国上寺の萬元上人から一日五合の粗米を給わり、この庵で過ごしたことから「五合庵」と呼ばれるそうだ。駐車場まで戻り、まだ宿のチェックインまで時間があるので、道の駅「良寛の里わしま」に行き時間をつぶすことにする。この近辺は、とにかく良寛さんの名



が付いた名所・旧跡が至る所に点在する。道の駅自体は小じんまりとした建屋だが、周辺に良寛の里美術館等があり公園のように整備されている。道の駅から海岸へ向かい、寺泊まで走ると宿からTELが入り「準備が出来たのでチェックイン OK です」との連絡があり宿に向かう。

宿は海辺にあり眺めがよく、温泉も綺麗だが少し深く、入る時は要注意の浴槽だった。

夕食はズワイガニが1匹付、お刺身も新鮮で美味しく皆さん完食し満足したようだ。

明日の天気も不安定で、雷雨があるとの事なので山は諦め買い物して帰ることにした。

8日： 夕華 8:30＝寺泊「魚の市場」9:00/10:00＝道の駅「パティオにいがた」10:30/11:00＝赤城 SA12:30/13:00＝岩舟町役場 P15:20

8日 雨のち晴れ 雨の為寺泊「魚の市場」や道の駅「パティオにいがた」で買いものし岩舟支所へ

朝6時に起床し温泉に浸かり、窓の外を眺めるとまずまずの天気にもしかしてと期待した。

ところが朝食を食べに食堂に行くと、窓の外が真っ暗になりバリバリバリと雷鳴がとどろき驚いた。

皆さんもこれで山への思いを断ち切れ、のんびり朝ごはんを楽しむことにした。朝食もとても美味しく、皆お代わりして完食した。出発の準備をして宿の主人にお礼し、荷物を積んで出発する。

寺泊の駐車場に着き、魚の市場通りを西から東に向かって買い物がスタートする。まだ開店したばかりで、店の方も忙しそうで客引きや値引きも無く気持ちが乗らない。端から店の中を見て歩いた



が、欲しいものが見当たらない。皆さんも同じような状態で、ワカメやモズク等を買って駐車場に戻ってきた。宿の御主人に「山本五十六記念館に、是非寄ってみてください」と勧められたが、女性陣に却下され道の駅「パティオにいがた」に向かう。

信濃川に沿って燕・三条 IC に向かい、インターの直ぐ側にある道の駅だ。この道の駅は、平成16年の水害により刈谷田川が破堤し、河川修理を行って埋め立てた用地に建設された。広大な芝生に加え、

遠くに守門岳や粟ヶ岳を望む絶好のロケーションが得られる人気の道の駅だ。地元の特産品や採れたての野菜が豊富に並び、お客の数も他の道の駅とは比較にならないくらい多い。我輩も山菜やイチゴのメロンパン、どら焼き等を買って車に戻る。皆さん約束の時間までに戻り、燕・三条 IC から北陸道に乗り帰路につく。途中の赤城 SA で昼食を食べ、赤城 IC から降りて県道70号を進み、国道353号を通り赤城南面千本桜に向かう。

スマホで開花状況を見ると、桜の花があまり無いようだ。まだ開花したばかりなのか、それともすでに散ってしまったのか意見が分かかれ盛り上がった。段々近づくと三夜沢交差点手前1Km位から渋滞が始まり、車が中々進まない。桜は諦め三夜沢交差点を右折し、群馬フラワーパークまで行くとこちらも駐車場は満車状態だ。諦めて何処にもよらず岩舟支所に向かい、予定より早く3時過ぎに帰着した。



2日間とも天気にも恵まれず目的の山には登れなかったが、のんびり観光とお買い物ができそれなりに楽しめ、たまにはこういう旅も良いものだなと思った。